

立ち上がりの悪さをどう語るのか

～先発投手を対象として～

三浦 康輔 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導教官 豊田 則成

キーワード：投手，立ち上がり，負のトライアングル，負のスパイラル

1. 諸言

本研究では、「先発投手は、初回の立ち上がりの悪さをどう語るのか」というリサーチ・クエスチョン(Research Question: RQ)を設定し、質的にアプローチし、投手の立ち上がりの悪さの語りについて、発展継承可能な仮説的知見を導き出すことを目指した。

2. 方法

インタビューマニュアルを下に、一人1時間程度(1対1形式)の半構造化インタビューを実施し、質的研究法の代表的手法である、グラウンデッド・セオリー・アプローチ(Grounded Theory Approach: GTA)を参考にして質的に分析を行った。

3. 結果・考察

上記の下、GTAを用いて質的研究法を行った。その結果、「先発投手は、試合開始時(立ち上がり)には、心に迷いがある。投手は安定を求めるが、気持ちの緩みや安定させようと過剰に意識することで悪循環へと陥り、心の動揺を生む。そして、失点に対する不安や恐怖が大きくなると、負のスパイラルに突入してしまい、どうにかして立て直そうとするが抜け出せなくなってしまう、負のトライアングルとして語る」という仮説的知見を導き出した。

4. まとめ

すなわち、立ち上がり時には心に迷いが生じ、安定を求めるが上手くいかずに負のスパイラルへと陥ってしまう。立て直そうとするが、それも上手くいかず、抜け出すことの困難な負のトライアングルへと陥る。

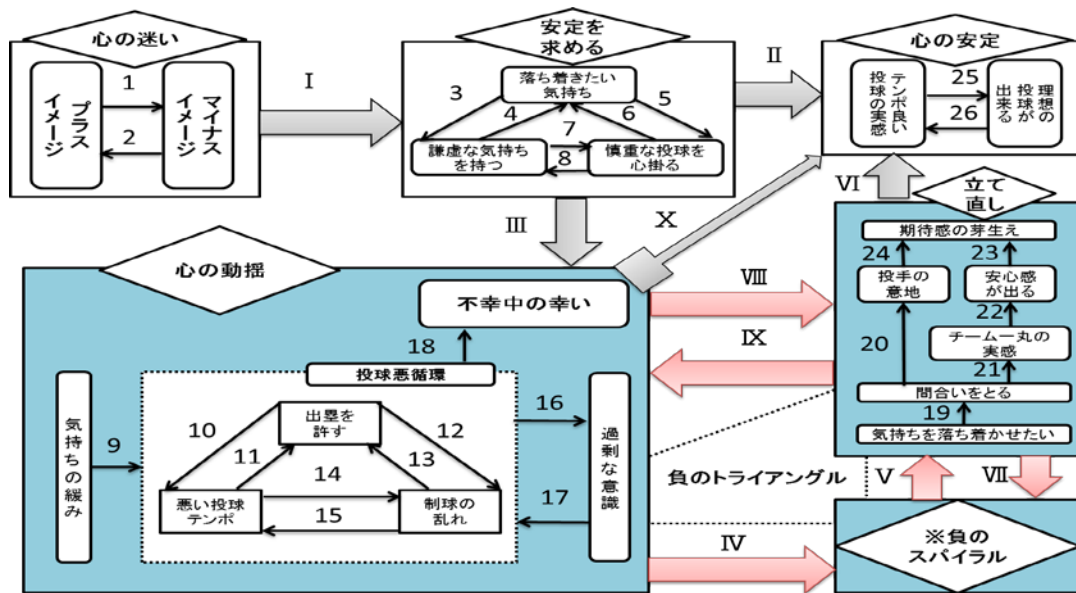


Fig.1: 投手の立ち上がりにおける心理プロセス

※ Fig.2参照